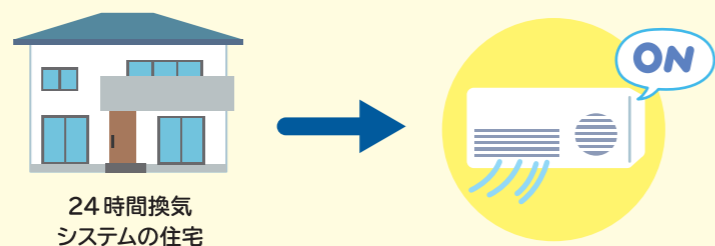


換気扇類の使用方法

24時間換気システムを設置している住宅であっても、防音工事により取り付けられた換気扇は、常時稼働しておいてください。



石油ストーブ等の使用や加湿器の使用、部屋干しなどにより、結露が発生しやすくなりますが、換気扇を稼働させることにより結露が発生しにくくなります。



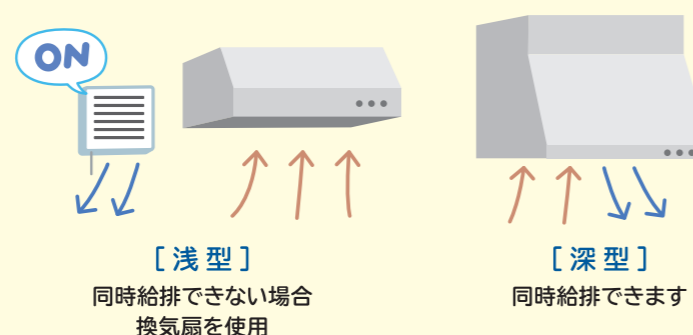
シャッター付きの換気扇壁掛け型は、台風などの強風時には運転を停止し、シャッターを閉めることをお奨めします。



ガスコンロを使用する場合は、酸欠の恐れがありますので、レンジフードで強制換気を行うようにしてください。



防音工事により設置可能なレンジフードは『深型タイプ』と『浅型タイプ』があり、深型タイプは給気と排気を同時に行うことができますが、浅型タイプは同時給排ができない製品であるため、必ず防音工事の際に取り付けた給気用の換気装置と併せてお使いください。



お問い合わせ



防音工事済み住宅 住まい方ガイド

～ 防音工事を実施した住宅での快適な暮らし方 ～

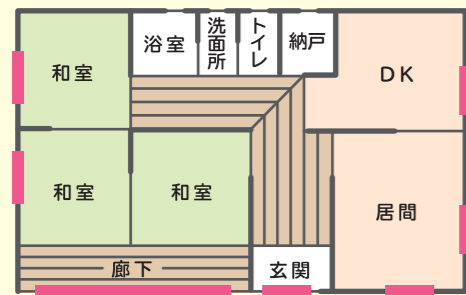


住宅防音工事とは

住宅防音工事は法律等に基づき国が告示した騒音対策区域内の住宅を対象に、元々設置されている普通サッシを防音アルミサッシに取り換える等の工事を行い、航空機騒音の影響を軽減させ、室内において静穏な生活環境が保たれるよう実施させて頂くものです。

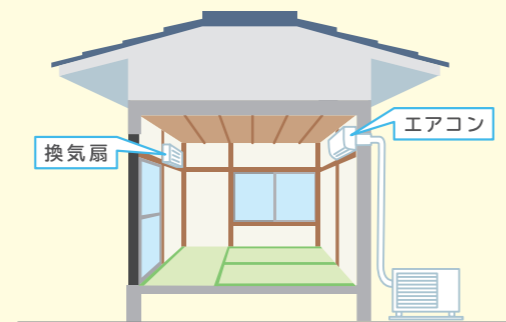
防音サッシ等の取り付け

住宅の外部開口部（窓、掃出し、出入り口）の建具に防音アルミサッシ、防音アルミドア等を、壁・天井には減音材を使用することにより遮音性能が向上することとなります。



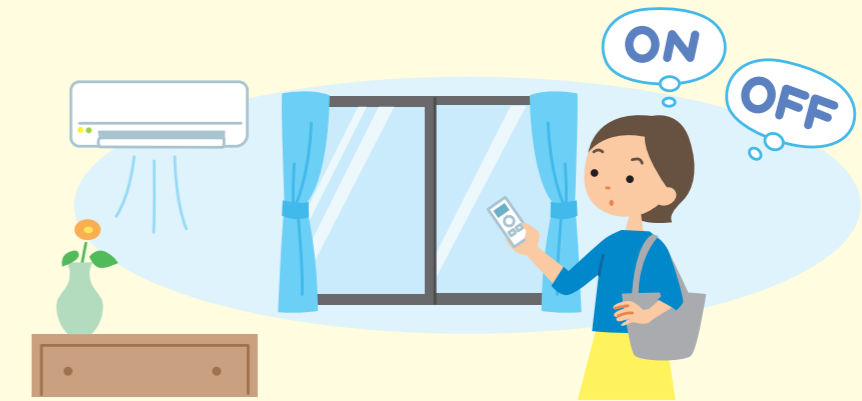
空調機器等の設置

エアコン、換気扇及びレンジフード（深型タイプ/浅型タイプ）については、住宅防音工事の施工により室内の気密性が高まるため室内の空気調和を図るために設置させて頂くものです。

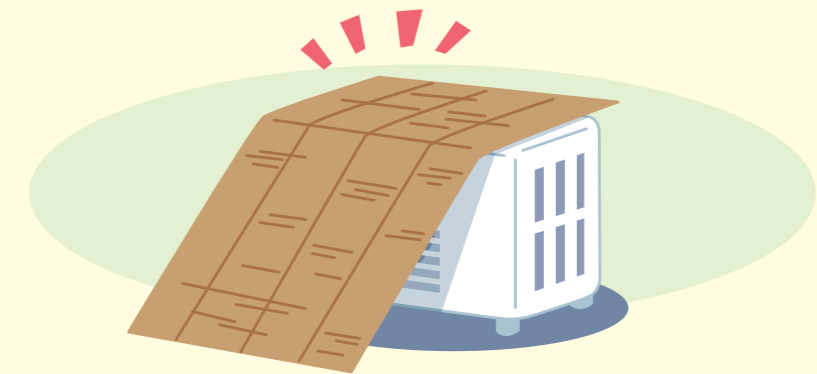


エアコンの使用方法

エアコンは電源を入れてから設定温度に至るまでの間に、電気を多く消費します。室内の温度と設定温度の差が大きいときには強い運転になり、室温と設定温度との差が小さいときには緩やかな運転に切り替わるため、継続運転で使用するのか、こまめに電源を入れたり切ったりするのか、上手に使い分けることをお勧めします。また、フィルター等をこまめに掃除することで、運転の効率化を図ることができます。



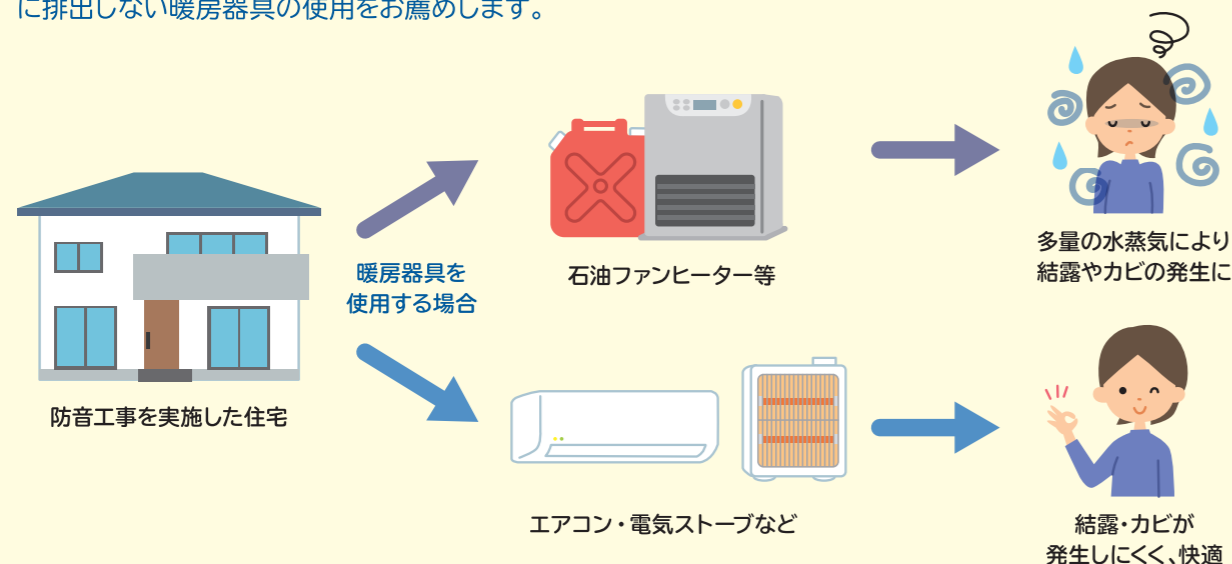
夏場など室外機に直射日光が当たる場所では、カバーをかけるとエアコンの効率が悪くなるので、すだれ等で日陰を作り、風通しを良くするなどの工夫をすることをお勧めします。



防音工事済み住宅の住まい方について

注意事項

防音工事を行うと住宅の気密性が高まります。また、高気密高断熱住宅にお住まいの方々の防音工事も増えていきます。このような気密性の高い住宅において、石油ファンヒーター等を使用すると、室内に燃焼ガスが排気され燃焼時の化学反応により水蒸気も発生します。多量の水蒸気は結露やカビの発生につながり、場合によってはこれらが原因となって健康を損なうおそれがあります。これを防ぐためには十分な換気を行う必要があります。このため、防音工事を実施した住宅においては、エアコンや電気ストーブ等排ガスや水蒸気を室内に排出しない暖房器具の使用をお勧めします。



冬場など気温が低い時期の朝は、室外機に霜が付き、霜取り運転機能により霜を溶かしてから稼働するので、暖房機能が稼働するまで時間を要する場合があります。タイマーを利用するなど稼働時間の調整を行い、快適にお使いいただくよう工夫をお願いします。

